

Wings for Life World Run 福山 | ご協賛・ご参加への御礼

改めて、このチャリティーイベント「Wings for Life World Run 福山」を終えて、今なお胸に熱いものがこみ上げています。

400mのトラック！で、ただそれを何十周、中には100周以上走ってくださいと言われてたら…「無理だよ」と答えるかもしれません。

でもこの夜、私たちは自然とその周回を重ねていました。

「楽しかった」「ありがとう」

皆さんのキラキラの表情から自然とこぼれた言葉。

それは、単なるランニングイベントではなかった証です。

自分の行動が、誰かのためになっているという実感。

今回は、脊髄損傷と向き合っている方々の支援という目的のもと、車椅子で参加された方々の姿が、まさにその象徴でした。

なかでも、私の友人で車椅子ユーザーの藤井かなちゃん。

「福山でこのイベントを開催するから、一緒にやろう」と声をかけた昨年の約束が、現実のものとなり、彼女が仲間を連れて福山に駆けつけてくれました。

その周囲の方々も多く関わってくださり、さらに私が声をかけた人たちも、迷いなく「行きます！」と応じてくださいました。

イベントを「人に声をかける」ということは、決して簡単ではありません。

時に迷い、時に傷つくこともあります。

でも今回、来られなかった方も含め、名簿に名前を連ねてくださった皆さま、

そしてお声がけしたスポンサー様に、一社として断られることなくご賛同いただいたことに、力強く背中を押して頂けたことを深く深く感謝しています。

スポーツというものが、ただ「自分の目標のため」だけにあるのではなく、

「誰かの力になる」ことへと形を変えていく瞬間。

それこそが、私が2024年4月に声を上げた「スポーツの地位向上」への願いでした。

この想いがレッドブルジャパン様の目に留まり、お声がけいただいたことから始まったご縁。今回の福山会場では、私の自前開催にも関わらず、機材アイテムなどをご提供いただき、あの幻想的な夜のステージが成立しました。

普通では考えられないほど幸せな環境だったと思います。

その一つひとつが、皆様の心が作り上げてくれた奇跡でした。
あの夜、照明に照らされたトラックを走る姿、歩く姿、車椅子を進める姿。
それは、美しく、そして神秘的なものでした。

私は、その場に立てたこと、
この福山の地に世界をつなぐイベントを持って来られたこと、
何よりも皆様の温かさと力を感じたことに、心からの誇りと幸せを感じています。

興奮と感謝で、その日は眠れませんでした。
それほどまでに、私の人生の中でも忘れられない1日となりました。

本当に、ありがとうございました。
そして来年！またこの地でお会いできることを心から願っております。

Wings for Life World Run 福山
キャプテン 福元テツロー

